

2009年 世界保健デー (4/7) 安全な構造の病院で、災害時に命を救おう



沖縄県南部福祉保健所 譜久山 民子

WHOが4月7日と定めた世界保健デーは、1949年(昭和24年)に制定され実に歴史が長い取り組みで、すべての人々が可能な限り最高の健康水準に達することを目的としている。

ちなみにその標語を振り返ってみた。

1999年「アクティブ・エイジングが違いをもたらす」

2001年「Stop exclusion-Dare to care (相互理解を深めようーみんなで一緒にケアしよう)」

2002年「健康のために動こう」

2003年「未来の生活を考えよう:子どもたちのための健全な環境」

2004年「交通安全」

2005年「Make Every Mother and Child Count 親子を地域の力ではぐくもう」

2007年「Invest in health, build a safer future」

2008年「気候変動~私たちに出来ること」

2009年のテーマは「Save lives. Make hospitals safe in emergencies」で、「安全な構造の病院で、災害時に命を救おう」と言うことになるか。

近年の海外での災害を振り返っても、病院を含めた多くの建物破壊は記憶に残っている。地震による災害ではしばしばで住民の住む地域の破壊を余儀なくされ人々の命を奪い心痛む出来事となる。一方で日本では2005年耐震強度の偽装の問題が思いもかけず発覚したりした。

しかし日本は公共の建物は安全であることが当然で、その都度その方向で修正をしてきていると思う。この当たり前のことが世界の中でどのようになっているのか注視すること、その重要性やそのための支援が求められている。

WHOのこの呼びかけにその分野の専門家と共に更なるメッセージを共に発信していくことが必要となるだろう。

次は、WHOのメッセージの内容を訳したもののだが、参考にしていただければ幸いである。

WHOのメッセージ

2009年の世界保健デーは保健医療施設の安全性と医療保健業務従事者の準備に焦点を置いている。その医療保健業務従事者は、災害や救急時の受傷者を治療する。

災害弱者にとって保健所とスタッフは、人々の保健ニーズである災害時の外傷治療、疾病予防、およびケアのための重要なライフラインである。

例えば、非常時でも不可欠な出産の安全や、ワクチン接種や慢性疾患へのケアなどにおいて、プライマリーヘルスケアにとってこのライフラインが礎石となる。

災害時には、破壊された保健システムでは、しばしば既に、現在及び将来の公衆衛生の結果を出すために、機能し続けることができない。

1. 災害時は、いかに健康に影響するか

中国のWenchuan地震では2008年5月、11,000以上の医療機関が損壊し、何万人もの人々がほかの場所で治療を求める事を強いられた。エチオピアとガザでの現在の闘争は予防接種のような一時保健サービスを中断した。

2004年のインド洋津波はインドネシアのアチェ州で61%の保健医療施設を破損し、助産婦の約3分の1の命を奪い、その地方の女性の健康のために大きな損失となった。

2. 成功への計画

次の数カ国は命を守るために準備をしていて、病院を安全に維持するために機能した。

メキシコでは、どの施設が改良を必要とするかを判断し、訓練された評価者がその200の保健医療施設の安全について診断した。

バングラデシュでは、保健のための多機能施設や、教育と農業が、低気圧や洪水の災害後の救援支援を実施するためのプログラムに組み込まれてきた。2007年のCyclone Sidr後に何千人もの命を救った。

日本やパキスタン、ペルーでは保健医療施設は、現在、耐震構造で建設されている。

ソマリアの病院は、安全が脅かされている中でも、すべてのために健康を確実にするために患者を治療し続けている。

世界保健デーはグローバルな健康プライオリティの認識を提起するWHOが最も目に見える機会の1つである。

今年はWHOと国際的なパートナーは、危険に耐えられ、直ぐに必要な人々を救う様な保健インフラに投資する重要性を強調する。

また、彼らは、火災のような内部の非常時にも応じるシステムを導入するよう保健医療構造を促し、ケアの持続を確実にする。

世界中の行事は、安全な施設のデザインと構造の為に、成功を強調して、かつ促し、広範囲な災害時における準備のための気運を築き上げる--命を救って、グローバルな健康を向上するために。

お 知 ら せ

こんな電話にご注意を！！

勤務医師の実家に、宅配便会社の名を語り、「貴家のご子息・ご令嬢宛に日本医師会から、直接、本人に渡すべき届け物があるので、勤務先・住所・電話番号を教えて欲しい」などの“問い合わせ電話”が頻発しています。

本会が警察に相談したところ、「医学生時代の名簿を使った『振込み詐欺』に発展する可能性があるので、取り合わないことが大事」との回答でした。

会員の皆様は、くれぐれもご注意ください。

日本医師会